【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成23年11月24日(2011.11.24)

【公開番号】特開2010-107398(P2010-107398A)
【公開日】平成22年5月13日(2010.5.13)
【年通号数】公開・登録公報2010-019
【出願番号】特願2008-280578(P2008-280578)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｎ　35/10　　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　35/08　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｎ　35/06　　Ｆ
Ｇ０１Ｎ　35/08　　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成23年10月12日(2011.10.12)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
検体が通流する流路を具備し、該流路を通流した検体を処理する検体処理と、該検体が通流した前記流路を洗浄する洗浄動作とを実行する検体処理機構と、
前記検体処理機構による前回の洗浄動作から経過した時間に基づいて、前記検体処理機構の洗浄動作を制御する制御手段と、を備える検体処理装置。
【請求項２】
前記制御手段は、前記検体処理機構による前回の洗浄動作から経過した時間が長い程、前記検体処理機構の洗浄動作の時間を長くするように構成されている、請求項１に記載の検体処理装置。
【請求項３】
前記検体処理機構は、所定の手順で内部の洗浄を行う洗浄シーケンスを１回又は複数回繰り返して実行するように構成されており、
前記制御手段は、前記検体処理機構による前回の洗浄動作から経過した時間が長い程、前記検体処理機構の洗浄シーケンスの実行回数を多くするように構成されている、請求項２に記載の検体処理装置。
【請求項４】
前記制御手段は、前記検体処理機構による前回の洗浄動作から経過した時間に基づいて前記洗浄シーケンスの実行回数を決定し、決定された回数の洗浄シーケンスを前記検体処理機構に実行させるように構成されている、請求項３に記載の検体処理装置。
【請求項５】
前記検体処理機構は、検体を吸引する吸引部と、試薬を供給する試薬供給部と、検体の特徴を示す特徴情報を検出する検出部とをさらに具備し、
前記流路は、前記吸引部によって吸引された検体と前記試薬供給部によって供給された試薬とを前記検出部へ供給するように構成されており、
前記制御手段は、前記吸引部から検体を吸引することなく、前記試薬供給部から供給された試薬を前記流路を通じて前記検出部へ供給する洗浄シーケンスの実行回数を、前記検体処理機構による前回の洗浄動作から経過した時間に基づいて変化させるように構成され

ている、請求項３または４に記載の検体処理装置。
【請求項６】
前記検体処理機構は、前記検体処理において検体と試薬とから測定試料を調製するとともに、前記洗浄動作において、前記検体処理と共通の試薬を用いて前記流路を洗浄するように構成されている、請求項１乃至５の何れか１項に記載の検体処理装置。
【請求項７】
前記試薬は、検体を希釈するための希釈液である、請求項５又は６に記載の検体処理装置。
【請求項８】
前記制御手段は、検体処理装置のシャットダウン動作において、前記検体処理機構に洗浄動作を実行させ、前回のシャットダウン動作の後最初に実行される前記検体処理機構の洗浄動作において、前回のシャットダウン動作から経過した時間に基づいて、前記検体処理機構に洗浄動作を実行させるように構成されている、請求項１乃至７の何れか１項に記載の検体処理装置。
【請求項９】
前記制御手段は、検体処理装置のスタートアップ動作において、前回の洗浄動作から経過した時間に基づいて、前記検体処理機構に洗浄動作を実行させるように構成されている、請求項１乃至８の何れか１項に記載の検体処理装置。
【請求項１０】
前記検体処理機構は、洗浄液を用いた第１洗浄動作と、洗浄液を用いず、希釈液を用いた第２洗浄動作とを実行可能に構成され、
前記制御手段は、前記第１洗浄動作の後最初に実行される洗浄動作が前記第２洗浄動作である場合、前記第１洗浄動作から経過した時間に基づいて、前記第２洗浄動作を制御するように構成されている、請求項１乃至９の何れか１項に記載の検体処理装置。